



未来に向かって 力強く飛躍する

市政運営へ

市議会3月定例会議で田中市長が表明した、令和5年度の市政運営の基本的な考え方と主要施策について抜粋し紹介します。

市政運営の考え方

私はこれまでの2年間、市民の皆さんや市職員と顔を合わせて話す場を数多く設け、「過去に学び」「現状を捉え」「未来につなげる」市政運営を行ってきました。厳しい財政状況の中、長らく停滞していた高校魅力化や小中学校の適正配置などの施策を推し進め、ようやく軌道に乗り始めたと感じています。

令和5年度は、これまで2年間の改革の成果を活かし、各種施策を力強く前進させる年であると思っています。そのためにも、議員をはじめとする市民の皆さんのご協力と、活力ある民間企業や学校など各種団体との協働で「オールやすぎ」による「次の世代につなげる安来市づくり」を実践していきます。引き続き、市民目線でスピー

ド感を持つて決断・実行し、市政運営に取り組みます。

目の前にある課題への対応

人口対策

人口減少に歯止めをかけるためには、進学、就職、住居所有等、様々なライフステージの転機に対して、施策を展開していく必要があると考えます。

次世代を担う若者の定着促進を図るため、高校卒業後に進学した大学生等に向けて情報発信できる環境の整備など、手厚い就職サポートを行い、市内就職、市内居住を推進します。

また、サテライトオフィス等の整備の支援や、市でのお試し勤務を体験してもらう事業を実施するなど、IT企業等を誘致して新たな雇用機会を創出し、UITターンを促すといった定住

対策を行います。
デジタル化の推進

3月末に策定する「安来市DX推進計画」では、「デジタルで人と未来をつくるまち／人が集い、未来を創る安来市のDX」を基本理念に、市民、事業者、市職員が一丸となりDX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組み考えです。

マイナンバーカードを活用した各種証明書自動交付機器を安来庁舎に設置し、利便性向上と窓口の混雑緩和につなげるなど、デジタル社会のパスポートであるマイナンバーカードのより一層の普及を目指します。

加えて、窓口受付支援システムを導入し、申請・記載をサポートする「書かない窓口」化を進めていきます。

市税や保険料等もコンビニエンスストアで納付できるようにします。スマホ決済アプリで自宅でも納付が可能となりますので、ぜひご利用ください。

また、eスポーツの体験イベントを開催し、将来的にはeスポーツを介した国際交流、教育機関との連携などに取り組んでいきたいと考えます。

公共施設マネジメント

養護老人ホーム鴨来荘は、老朽化が著しく、安全性や入居者

のプライバシーの確保ができない状況にあることから、移転整備に向け、基本設計と実施設計を進めていきます。



▲鴨来荘外観。養護老人ホームは、措置によって入所できる施設です。

旧トスカ工場跡地整備については、ドクターヘリ・防災ヘリのヘリポートの整備、老朽化した比田分駐所の移転、比田分団の消防拠点施設の整備をするため、工場跡地の購入および工場棟の解体と、比田防災拠点施設の実施設計を行います。

和鋼博物館は、建物と設備の老朽化の課題があります。また近年、文化観光・日本遺産の拠点という新たな役割が求められています。建物設備の長寿命化計画と展示内容のリニューアルに向けた基本計画を策定し、ハガネのまち安来の象徴的施設としての機能強化を図ります。

新型コロナウイルス感染症対策

引き続き国の動向を注視しながら、小中学校をはじめ、市内各施設の感染防止対策を徹底し、アフターコロナを見据えた市内の経済活性化に資する事業にも積極的に取り組みます。

また、迅速で安全なワクチン接種ができるよう、国や県、安来市医師会など関係機関と連携して進めていきます。

令和5年度の予算編成

「次の世代につなげる安来市づくり」を目指し、第2次安来市総合計画の実現に向けた施策を重点的かつ着実に推進します。一方で、中期財政計画を踏まえ、費用対効果、事業規模、実施時期や終期の設定等を検証し、既存事業においても見直しを図りながら、将来のために必要な施策を中心に予算措置を行いました。

令和5年度の主な施策

保健・医療・福祉

●令和4年度は、市内4地区のミニデイサービスを重点に、フレイル状態のチェックやフレイル予防教室を行いました。また、疾病予防として、腎症ハイリスク者や治療中断者の状況を確認し、適切な医療受診を勧めることで重症化予防を図っています。令和5年度は、関係機関と連携を深め、対象者の拡大を目指して、事業を継続的に実施します。

●今後、安来市立病院は、「総合診療医を中心とした幅広い診療と医療連携体制の構築による救急・急性期医療の提供、在宅復帰に向けた医療機能の強化と継続した在宅医療をサポートできる病院」を目指すこととし、持続可能な医療提供体制の確保と経営基盤の強化に向け、中期計画となる「市立病院経営強化プラン」を策定します。

●安来市権利擁護センターを令和4年6月に設置しました。成年後見制度の周知、相談窓口の設置および手続き支援、担い手の育成と後見人支援などを行っていきます。

●現行の「第3期安来市障がい者基本計画」が令和5年度で期間満了となります。新たに第4期計画を策定し、「誰もが互いを尊重し、支え合い、自立し、安心して暮らせる共生社会の実現」を図っていきます。

●出産・子育て応援給付金として、妊婦1人当たり5万円、出生した子ども1人当たり5万円を支給します。妊娠期から出産・子育てまで一貫して相談に応じ、必要な支援につなぐ伴走型の相談支援の充実も図ります。

●放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）について、基本部分の利用料を統一し、一部事務をクラブから市へ移管するなど、運営方法を見直します。また、赤屋地区で運営している赤屋つ子クラブは、空調設備を改修し、児童の快適な生活環境を整備します。

●小中学校適正配置検討について、安来市小中学校適正配置審議会では慎重な審議が重ねられており、総合教育会議での検討やパブリックコメントの実施などを経て、令和5年秋頃に、「安来市立小中学校適正配置基本計画」を策定する考えです。また、「地域とともにある学校づくり」の視点から、地域と連携・協働した学校教育を推進する、持続可能な仕組みの立ち上げに向け検討を進めます。

子育て・教育・文化

●令和7年度から令和11年度を



◀放課後児童クラブでは、就学児童への放課後の適切な生活や遊びの場の提供、子育て世代の仕事と育児の両立を支援しています。
▶日々の運動がフレイル予防に重要です。安来市地域包括支援センターでは、家庭でもできる「こけいからだ体操」を推進しています。



●安来市給食センターが提供する給食について、「金芽米」を導入する予定です。また、給食費事務を全て市で管理して学校給食費を公会計へ移行し、保護者の利便性の向上や徴収・管理業務の効率化、また透明性向上を図ります。

●不登校および不登校傾向にある児童生徒の支援のため、教育支援センター機能を拡充し、相談員や支援員を増員するとともに、能義こども園を利用し一部児童生徒を受け入れます。

●伯太体育館の耐震改修と天井改修、照明器具のLED化、受変電設備等の改修を実施します。

●2月7日に台湾新北市新店区と友好交流都市覚書を締結しました。今後は人的交流だけでなく、商工団体や民間企業の橋渡し役となり、観光、経済交流も積極的に推進し、新店区からの誘客や物産の流通の促進を図っていきます。

防災・防犯

●伯太防災行政無線設備について、無線局の廃止に伴い、屋外子局などの無線設備を計画的に撤去します。

●原子力防災への取り組みとし

て、避難対象地区ごとの避難先や避難ルートを図説したパンフレットを、広報紙4月号の配布に併せ、各家庭へ配布します。

●役割が多様化している消防団の充実強化を図るため、令和5年4月1日より消防団員の年報酬および出動手当を増額します。

産業・観光・雇用

●島根県信用保証協会との連携により、創業者向けに「保証料負担ゼロ制度」を創設し、起業、創業を後押しするとともに、地域経済の活性化を推進するため、空き店舗等へ出店を促すための家賃補助および改装費補助、中山間地域における店舗整備および移動販売車購入補助を実施します。

●市の特産物であるイチゴについて、産地力および販売力の強化、新たな農業の担い手確保や交流人口の増加を図るため、中海干拓地で収穫体験農園等の施設の整備事業支援を行います。

●観光振興について、インバウンド増加とアフターコロナの観光回復を見据え、効果的な情報発信や多言語化の強化を図ります。安来市観光協会ホームページをリニューアルし、ホーム

●SNSを活用したプロモーション動画。第1弾はインスタグラムで1万回の再生数に達しました。



ページとSNSを活用した情報発信や主要観光地を中心としたコンテンツ企画、各種プロモーション等により誘客の推進を図ります。

●5年に1度の戦国尼子フェスティバルを開催します。地域の様々な団体が参画する実行委員会で準備を進め、三日月公園周辺をメイン会場に、武者行列やステージイベントなどを予定しています。

●湯田山荘は6月から10月末まで休館し、冬期一時居住施設として兼用するための改修工事を行います。リニューアル後は、湯田山荘内にコインランドリー

●安来節演芸館は、平成18年1月にオープンしてから17年が経過しました。



を設置し、冬期一時居住時の洗濯スペースとしてだけでなく幅広く活用します。

●安来節演芸館は、設備の経年劣化により大幅な設備改修工事が必要なことから、令和5年4月から1年間休館し、施設の設備改修工事に併せ新たな指定管理者を募集します。設備改修後は、安来節の普及振興と魅力あふれる観光地づくりを目指し、誘客促進を図ります。

都市基盤・生活

●令和7年の開通に向け、整備が進められている「切川バイパ



▲市内の公共交通を持続的に維持・確保していくため、デマンド交通など、地域の実情に合った交通手段の検証を行います。

「ス」沿いについて、現在要望しているスマートインターチェンジの設置に併せ、周辺地域への民間事業者による投資を呼び込み、新しい市街地づくりを行うための検討を進めていきます。

●令和3年度に策定した安来市地域公共交通計画に基づき、タクシー車両を活用した乗合交通の実証実験を宇賀荘地区の伯太川東地域で実施します。自宅前までの送迎といった、これまでのイエローバスでは困難な個別の移動ニーズに対応するための新たな移動手段の検証を行い、完全予約制の効率的な運行を行うことで将来に渡り持続可能な公共交通体系の構築を目指します。

●市営末広団地と大栄団地の基本設計および実施設計、市営糺

団地の内部改修工事や、和田南土地区画整理事業への支援など、市内の住環境整備に取り組みます。空き家対策について、空き家の活用や、老朽空き家の解体促進に向け、民間事業者と連携協定を締結しました。市内の空き家の適正管理を促すことで安全安心なまちづくりを推進します。

自然・環境保全

●安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョンに基づき、公共施設等への再生可能エネルギー設備導入調査をはじめ、市にあつた再生可能エネルギーの活用方法を検討するとともに、将来世代である中学・高校生への学習会や脱炭素社会の必要性について理解を深めるための情報発信・教材づくりを実施します。

●一般住宅への再生可能エネルギー設備導入に係る補助を拡充します。温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギーへの移行を促進し、市民の皆さんと一体となってゼロカーボンシティ宣言の実現に向けた取り組みを進めていきます。

●市民が安心して暮らすことのできる安全なまちづくりと、低

炭素社会の構築に向けたエネルギーの効率的な利用の推進を図るため、公共施設等の照明灯のLED化を進めます。市が管理する全ての屋外照明灯と南体育館の照明をLED化し、アルテピアの小ホールの舞台照明設備についても、計画的にLED化を行う予定です。

参画・協働・行財政

●安来市交流センターを核とした地域づくりのあり方検討委員会の報告に基づき、地域づくりに必要な人づくりと地域支援を一体的に進めるため、補助事業を新設し、新たな地域運営組織の円滑な立ち上げや地域課題解決に向けた取り組みなどを支援します。

●令和4年12月に改築した比田いきいき交流館は、これまであつた直売所に加え、カフェや厨房スペースを新設しました。住み慣れた地域での生活を続けていけるよう、小さな拠点づくりモデル地区である比田地区の住民主体の地域課題解決に資する事業を展開していきます。

●「やすぎ刃物まつり」を、刃物にとどまらない、材料である鉄や鋼の歴史と文化を再認識できるようにイベントとして

リニューアルします。今後は、開催時期を秋とし、令和5年度は、10月7日から8日にかけて開催することが決まっております。また、会場を和鋼博物館に戻し、「刃物まつり」を通じて、和鋼博物館を中心としたハガネのまちのPRを更に強化していきます。



▲令和5年度のやすぎ刃物まつりは、刃物だけでなく、たたら製鉄にもスポットを当てて「ハガネのまちやすぎ」をアピールします。

令和5年度市長施政方針の全文は、市ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

トップページ>市政
>市長の部屋>施政方針：所信表明
問い合わせ
政策企画課
☎23-3060